

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和七年七月〜九月分)

選者 志やくなげ俳句会 高野 閑林 先生

特選天 水打つて無事平穩にひと日終ゆ 群馬県 北村 悦子

暑さを和らげるために庭や路地に水を撒いて一日が終わることへの安堵と感謝の表れた句です。

特選地 短冊に子の夢あふる星祭 群馬県 仙田 美名代

七夕が近づく頃小学校の教室に飾ってあった笹竹を想像しました。「子の夢あふる」の措辞に短冊が笹竹一杯に飾られている様子が眼に浮かぶ分かりやすい句です。

特選人 畑仕事釣瓶落しの陽が急かす 群馬県 篠原 庄治

日の短くなる時期の畑仕事は、人間が太陽に使われていると言えるでしょう。そんな気持ちの表れた句です。

入選 去年今年敷居をひとつ跨ぐごと 東御市 岩下 恵美子

入選 切りし尾の激しく動きとかげ逃げ 愛知県 武山 明彦

入選 盆帰省幼き孫の燥ぐ声 長野市 千原 光弘

入選 新盆や相似の顔の揃ひけり 岩手県 小山 尚宏

入選 大南瓜猿より先に収穫す 群馬県 竹湊 洋子

入選 秋刀魚焼くあたりに臭ひ漂はせ 三重県 西尾 泰一

入選 葺き替への茅の切口涼新た 須坂市 鋤柄 恵美子